

高学歴社会を

さようなら！

いとしのマンガよ

生き抜くために

＝ま え が き＝

世の中の景気は、絶望的な不況感から、少々先行きの見通しがつき始めた薄明りの時代に入ったようである。しかし、国際情勢は、これまでの楽観的な経済成長論が、もう過去の思想になったことを示している。ということは、学生の立場に立って考えてみると、世の中ますます厳しくなる、ということでもある。

新聞の伝えているように、大学卒の大量失業時代がやってきたのである。学歴というお墨付は、もう神通力を失い始めたのである。明治百年来の、日本近代化の一つの推進力であり、日本の産業発展の原動力の一つともなった「高学歴」を目指しての涙ぐましい努力や投資も、その「学卒」という肩書きだけでは通用しなくなってきたのである。

学歴が神通力を失った時に物を言うのは、いうまでもなく本人の実力である。それは、教科書だけ開いていて手に入るものではない。教科書以外にどれだけ多くの書物を読み、知能の訓練をやったか、人間的成長をとげているか、ということである。小・中学校時代の受身の学習態度から、主体的な自発的な学習態度へ脱皮できたか、それがどれだけ身についたか、ということが真剣に問われなくてはならないのである。

教科書以外は、マンガしかみないといった連中は、やがて本校に居れなくなるだろう。永年つきあってきたマンガ本（マンガ文化）よ、さようなら。この別れの言葉を、口にできた者こそ、福島高専にふさわしい学生であり、高学歴社会を生き抜いていくことが、できるのである。

新年度第1号のピブリアは、校長先生の特別寄稿をはじめとして、専門各科の先生方の味わい深い原稿を頂戴できた。学生諸君は、その一字一句を、じっくりかみしめて欲しい。そこから無限のエネルギーが汲みとれる筈である。

芋川平一

文学音痴の読書歴

機械工学科 菅野喜之

私は文学音痴である。音程、リズムおかまいなしに自分勝手に偏曲（編曲）してしまうのが音痴のように、想像力が乏しく、文学の機微がわからない鈍感者である。それが、読書歴などおこがましいが、私の失敗談が、同じ文学音痴の参考になればと、筆をとりました。

「シュバイツァー伝」のなかで、「博士はどのような書物を読みましたか。」と、いう問に対して、博士は、「私は、読みたい本しか読みませんでした。」と、答えている。読みたい本を読むのは、誰でも当り前のことであろうが、教養基盤の違いが問題である。

高専入学当初のオリエンテーションで、「君たちは、今日から生徒ではなく、学生である。それゆえ、この高専五年間の青春期において、自我を確立し、今後いかに生きるかという思想を築いていってほしい。」といわれ、「こりゃ大変だ。漫画はもう卒業だ。本を読もう。」と、いうことで、一年の夏休みからポチポチ長編文学を読み始めたのが、私の本格的読書の始めであった。

しかし、始めたのはよいが、すぐ教養基盤の軟弱さにつかかってしまった。例えば、二年になって、倫理で、プラトン、ニーチェ、キルケゴール etc. がでてきた。世界の思想家を知るよい機会だ。と、入門書に頭をつっこみ始めたが、全然、人間の深さ、次元が違うというか、プラトンのアイデア論など、実感としてとらえることは、できなかった。

教養基盤として、① その学問に必要なセンス、興味。② いままで、その学問体系にどの程度触れたか。の、2つがあると考えている。

私にあてはめると、①は、文学的感受性はない。日本を代表するといわれる川端文学が、わからない文学音痴である。②は、高専のカリキュラムのなかでは容易ではないし、先輩と話すことも、文学音痴という負い目があったので、その勇気がなかった。まして、独学で思想体系を把握する才も私にはなかった。文芸評論家のものも読んでみたが、わからないことが多々あった。

勿論、高専時代に、そのときどきに感銘を受けた本もいくつかあった。花袋「田舎教師」、独歩「武蔵野」、太宰「人間失格」、カフカ「城」、柴田「されどわれらが日々」、五味川「人間の条件」、漱石の作品、シ

ャックル「楽しい数学」、岩波書店の「解析概論」、培風館の「哲学シリーズ」、福永武彦「愛の始め、愛の終わり」etc。

自分、高専生活、機械工学（専門）、世の中のかわりあいについて、何とか自分なりに体系化したいと、読書以外でもいろいろ試みたが、結局ウヤムヤのうちに、欲求不満のまま卒業してしまった。

ルーツを見つけたい、つかみたいという欲求は、若者が誰でもいただくものであろう。反面、いかに生きるかということは、棺に入ってもわからないだろうと、私は考える。この大変な問題に、血が騒いでしょうがないが、私のように教養基盤が軟弱でどうしようもないという学生がいたら、自分の足場のしっかりしたところから取り組んでみることを、勧めたい。

人間、何か1つぐらいいは、取り得があるものである。（それが無いものは、授業のなかで興味があるもの。）それを足場にして、その歴史をさかのぼってみるのである。例えば、数学に興味があったら、エジプト以来の数学の発達と、その時代の社会との影響関係を調べてみるのである。物理、技術史、音楽、スポーツ、しかりである。そのとき、注意することは、自らの最初の足場を忘れないことである。教養基盤の軟弱なものは、溺れてしまうからである。そして、徐々に軟弱な足場を固めてゆけば、いいと思う。

以上のことは、高専時代、カラ回りしてしまった私の反省から思いついたことなので、無責任ではあるが、これ以上の具体的なことは、わからない。

全く、私だけの経験からの雑文で、要領の得ないものとなって申し訳ない。若さは、失敗の許される時代である。むしろ、結果を恐れずに、向ってゆくことが若さだと、言われます。これは、真理です。ただ、感受性の豊かな、疲れを知らない体力のある高専時代に、すべて失敗に終わることなく、1つでも実を結べればと考えた、1先輩から後輩へのぐちぐちに思っこの雑文を読んで下さい。



太陽熱発電

電気工学科 内藤正義

エネルギー開発の重要性

ローマクラブの成長の限界によるエネルギー資源の有限性の指摘や、1973年突然世界経済を混乱に陥れた、いわゆる石油ショック以来、エネルギー資源問題の重要性が世界規模で、また各国ベースで認識されるようになったことは周知のことである。すなわち、今後の世界経済は、エネルギー資源の有限性といった制約条件のもとで、いままでのような高度経済成長は望めなくなり、静かな低成長経済への移行、産業構造の転換を余儀なくされるとともに、エネルギー資源の安定供給が国家の安全を保障する極めて重要な問題として位置づけられるようになってきた。このように、エネルギー資源の安定供給のための技術開発は、食糧問題と並んで、各国の安全を保障する最上級の課題であり、人類が、いや緑の宇宙船地球号が今後末長く安定に成長し続けることができるか否かを左右する、人類にとって最重要課題といえよう。

エネルギー資源問題への対策

わが国を始め世界各国のエネルギー資源の大半は、1985年までは石油に依存することは明らかであるが、その後2000年頃までは依存率は低下しても、石油依存への傾向はぬぐい去れないであろう。したがって、エネルギー資源問題は当面よりも2000年前後が厳しくなり、石油離れを目標にした世界規模での省資源・省エネルギーと、新エネルギー資源技術の開発にあるといえよう。

省エネルギー対策としては、民生面での省エネルギー、産業用エネルギーの利用の効率化、省資源・省エネルギー型産業構造の形成などが考えられる。

新エネルギー資源としては2000年までには、核エネルギー関係では軽水炉、高温ガス炉が、非核エネルギー関係では石炭（ガス化、液化）、地熱、潮力、風力、太陽エネルギー（中小規模）の開発、実用化が予想され、更に2000年以降には、核エネルギー関係では高速増殖炉、核融合が、非核エネルギーでは太陽エネルギーの広範囲にわたる利用技術（人工光合成を含む）の開発が予想される。

太陽エネルギーについて

太陽エネルギーの量はほぼ年間 1.0×10^{34} Jouleで、その22億分の1が1億5000万kmも離れた地球に反射されており、この値は世界の総エネルギー需要の約3万倍である。このように太陽エネルギーは量的にも豊富であり、他のいかなるエネルギーよりも環境汚染が少なく、しかも燃料費は無料であり、かつエネルギー収支上、最も効率の高いエネルギー資源といえる。しかし反面、地球表面あたりのエネルギー密度は低く（最大 1.0 kW/m^2 ）、かつ昼夜、気象による変動が大きい。これらのデメリットを技術面で克服することが今後の太陽エネルギーの本質である。

次に太陽エネルギーの利用技術についてみると、その集熱温度に広じて①100～150℃以下での家庭・ビルなどの暖冷房、海水の淡水化 ②300～600℃での太陽熱発電、工業用プロセスヒート熱源 ③800～1000℃での水の熱化学分解による水素製造 ④2500℃以上での水の直接熱分解による水素製造、などの分野が研究開発されている。また、このほか太陽電池で直接発電する太陽光発電や、光合成による有機物のクリーン燃料（メタン、アルコールなど）への変換技術、人類の夢である人工光合成などの研究開発も進められている。

以上のように、太陽エネルギーの利用は限りない可能性を秘めており、広範囲にわたる利用技術の積極的な研究開発が期待される。アメリカでは総エネルギー需要に対して、2000年で7%、2025年で25%を太陽エネルギーにて供給する計画であり、わが国のサンシャイン計画では2000年以降の総エネルギー需要の15%以上を太陽、地熱、石炭でまかなうことを目標にしている。

太陽熱発電システムの種類と特徴

太陽エネルギーは、地上では非常に密度の低いエネルギーであり、それをいかに効率よく集めるかということが、太陽熱利用のキーポイントとなる。したがって、システムもその集熱方式によって相違がある。それは大きく分けて、集めた光から熱への変換をフィールドの各部で行う分散型集熱システムと、光を一箇所に集め、そこで熱に変換する集中型集熱システムの二つに分けられる。

集中型は、ほとんど多数の平面鏡でタワー上の吸収器に集光するタワー方式集光システムをとっている。

分散型の種類は主に、反射鏡を使うものと、フレネルレンズを使うものがある。これらのほかに、プレ

ーンパラボラリニアなど、集中型と分散型の中間的な方式がある。又、システム全体を地球の数千km上空に打ち上げ、そこで太陽光を熱吸収器に集めて発電し、マイクロウェーブで地上へ送電する考えがアメリカで考案されている。

太陽熱発電の今後の展望

石油危機以後、世界各国で太陽熱発電に関する関心が高まり、アメリカのエネルギー自立計画、わが国のサンシャイン計画に見られるように、その研究開発が積極的に進められるようになってきた。以下わが国の現状と今後の展望について紹介する。

周知のように、新エネルギー技術研究開発計画（サンシャイン計画）は4年目に入り、太陽熱発電も実用化へと着実に第一歩を踏み出した。

すなわち、太陽熱発電の基盤研究を国立研究所が、大容量発電プラントの開発を指向した開発研究は民間企業で進められている。

電子技術研究所では、世界最初の分散型太陽熱発電テストプラントを昭和50年8月に開発した。又、1000KWパイロットプラントの開発を目標に三菱重工、日立製作所がそれぞれ開発研究を進めており、3年後の昭和56年には三菱重工は集中型（タワー型）、日立は平面曲面併用型と2つの違う方式で各々1000KWの発電を行う予定である。今後ますますクリーンエネルギーへの志向が強まり、貴重な国産エネルギーの開発といった面から、太陽熱発電の開発実用化が今後加速されることになろう。そして大容量の開発（10万KW以上）として火山山麓、河川敷、海岸線、更に将来は洋上に数多くの太陽熱発電所が建設され、電力系統に連系されることになり、また中小容量（10万KW以下）の発電としては、工場や倉庫の屋根、集合住宅や家庭の近辺に多くの太陽熱発電が建設され、それから施設に必要な電力を供給することになろう。また、太陽熱発電は、日射の特性から最初は今後ますます大きくなると予想される昼間のピーク負荷、特に夏の冷房ピーク負荷、また中間負荷の供給に利用されるであろう。そして遠い将来にはエネルギー貯蔵技術、特に蓄熱技術の進歩と相まって、ベース負荷供給用としても用いられるであろう。更に太陽エネルギーは、今後人類の生存に関係する最も基本的問題であるところのエネルギー問題と食糧問題の解決に無限の可能性を与えるものであり、その広範囲の利用が望まれる。

好奇心

工業化学科 伊藤 宏

人間とは、しかたのないものです。この世に生れてこのかた、目に見えるもの、手にふれるもの、耳に聞こえるもの、これ全てものめずらしく、やたらと、いじくりまわし、やがてまた、ほかのものを探し出し、同じことを始めます。

しかし、やがて自分の経験のみでは満足せず、人々の経験、さらには人の考え方まで知ろうとします。現在まで、ひきつがれた各方面の書物は、古い程、読みにくいものとなって来ましたが、昔のもの程、論旨が簡潔で問題点を間違いなく、おさえているように思えます。

小説の主人公は、私達より思慮深く、魅力的な場合が多いようです。私達が一生経験することのないであろう場面に、私達を引きこみ、自分で経験したような錯覚を心に植え付けます。

私にも並の高校生の時代がありました。2時から4時に学校をひけ、軽い睡眠の後、食事、勉強の日課でしたが、消燈前の一時の読書は、ぎすぎすした勉強の内容を忘れさせ、安眠を保障します。短時間の読書のために長編の小説は敬遠しました。兄貴二人が買求めた本の中から薄い本ばかりを探し出し、できるだけ1～2日で読みおえるようにします。今、思うと、「チボ一家の人々」、「風と共に去りぬ」など長編ものも夏休み中にでも、じっくり読んでおけばよかったと後悔します。

この頃、つくづく思いますが、忙しい時程、人間は色々なことをしたがるようです。興奮状態にあるためなのでしょう。それとも自分の心理的安定をはかるための行動なのでしょう。忙しい程、読書量も増えるようです。

話しが逆になりますが、中学から高校に入るために試験勉強中、戦死した叔父の残した啄木全集と詩集が目に入り、啄木全集は、未熟な私にはとても読みきれものではなく、詩集のみを読みきり、詩にあこがれたこともあります。

大学一年の夏休み、山形で退屈しのぎに県立図書館に行き、青年心理学なる本に手をかけました。自分ながら、自分の心理状態を理解しかねていたためでもないでしょうが、2～3ページは、おもしろく読みましたが、ページが進むにつれ、ニュートラリゼーショ

ン、リィクリスタリィゼーションなどと、カナ文字と英字が出てくるにつれ、わけがわからなくなって来ます。しかたなく脚註を読みますが、どうも理解できません。先を読むのをあきらめようかと考えましたが、とにかく読みきろうと5日程、図書館に通ったことがあります。

年をとるにつれ、小説を読む機会が減り、人間、社会について、より端的に論ずるものへと変わって来ます。

自分の仕事ははっきりしてきますと、自分の専門外の、たとえば社会学とか、経済学とかについてある程度の理解を持ちよいと思うようになります。そのような時、その道の総説のようなものがありますと助かります。

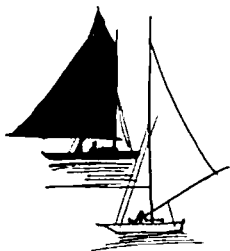
今はいろいろな本が手に入ります。先日、バスの待ち時間に本屋に入りましたが、訳本で「不確定性の時代」との本が目がとまり目次をながめて来ましたが、一読してもよいような気がしました。これからの時代がどうなるか、いつの時代にも求められ、書かれ読まれる本ですが、日々の生活に追われ、社会の変化にうとくなっている者にとっては、現実の世界を分析し、大胆に書きくたした本も、また好奇の対象となることでしょう。

人間とは生きている間、映画ではありませんが、「未知への遭遇」を期待して歩いているのがも知れませんが、それを満足させるものの中に、読書があることも確かでしょう。

好奇心、これは動物が生きて活動するための一つのポテンシャル・エネルギーなんでしょうか。人間の好奇心も本質的には同じものなんでしょう。

質的に高度のものなんでしょうか。とすると、人間の人間たるためには、好奇心の質によることになりましよう。

いずれにせよ、現在は、種々の好奇心を満足させる本が氾濫しています。動物である人間が、人間であるために、自分の持っているポテンシャルを浪費することなく豊かな精神生活を続けることも大切なことではないでしょうか。



明日の技術者を 目ざして

土木工学科 根岸嘉和

今、学生諸君に向って、「あなたが目ざす技術者像は？」という質問をしたとき、果たして、どれ位の学生が、確たる、自分の目ざす、技術者の理想像を持っているであろうか。実際には大半の学生が、各自、自分なりのイメージを描き、その夢に憧れを懐いているのかも知れないし、あるいは逆に、技術者としての将来に、大きな不安と、一種の幻滅的見通しを、持っている学生が多いのかも知れない。又あるいは、日々の勉強に追われるままに、その様な事は、考えた事もないというのが、実状なのであるか、とも考える。

いずれにせよ、技術万能、工学万能と言われ、多くの若い学生が、工科へ、工科へと進む状況の中で、工業高等専門学校が新設され、技術者の養成に、やっきになったのは、もはや遠い過去の出来事となった感がある。今後、現在の様な状況が、いかなる変遷をたどるのかは、予断を許さない問題であろうが、事態は、必して楽観視出来ないのが、現状であろう。

この様な社会情勢の中にあっては、学生諸君が、将来に対し、不安や、失望を感じざるを得ない、ということも、ある程度、やむを得ないのかも知れない。それは、高度成長時代の、工学専攻の学生達が、自分の将来を、楽観的に信じ、そのバラ色の夢に浸り切っていたのとは、あまりにもかけ離れた状況と、言わねばならない。

しかし、こういう時代こそ、確たる信念を持ち、将来への、しっかりとした展望を持った、創造性豊かな技術者が、真に求められる時代なのだ、と言えるのではないだろうか。もし、学生諸君の中に、現代の社会状況に責任をかぶせた、締めや、無気力な雰囲気があるならば、それは早急に排除しなければならない。

正しく、自分の置かれた現状を認識したうえで、各自それぞれの理想像を目ざして、積極的に働きかけ、自己を磨く努力を積んで行きたいものである。

そういった意味で、ここに紹介する書物は、技術の歴史的な流れを、その時代時代の社会的、学問的背景との関連のうえに理解し、また、現代の技術というのが、どの様に位置づけられるかを確かみ、将来の技術、並びに技術者の、あるべき姿を模索する為の、参

考となると思われる物を、図書館蔵書の中から、取り上げたつもりである。

技術の歴史 R.J. フォーブス原著 (岩波書店)

本書は、オランダの化学者フォーブスの著書 *Man the Maker* の邦訳版である。その内容は、先史時代から、20世紀前半に至るまでの、人類の科学的進歩の跡を、たどったものである。ここでは、科学技術の進歩に欠くべからざる、発見、発明の事例を、時代順に挙げて説明して行くなかで、その技術を生み出した“人間”というものを、生き生きと表現している。つまりこれは、技術を造り上げた人間自身の、進歩と、発展の歴史なのである。

現代日本技術史概説 星野芳郎 著(大日本図書)

本書は、明治維新から、昭和30年頃までの、日本の技術の歴史を、歴史学的手法によって、5ないし6の段階に分割し、各々の時代における、日本産業界の発展の模様を、その時代時代の社会的背景とともに語っている。また、この本では、技術史を分析する手法に重点が置かれている点が、大きな特徴である。その1つの現れとして、後半の3分の1程度の部分は、現代技術史学の方法という題で、技術の発展における形式、しくみ、社会条件、等といった事柄を内容とした、技術論が述べられている。

材料力学史 S.P. ティモシェンコ原著

(鹿島出版会)

本書は、世界の材料力学界の鬼才、ティモシェンコの著書の邦訳版である。これには、緒言において、アルキメデス、ダ・ビンチの業績についてふれるのを初めとして、本論では、ガリレイに始まる、17世紀の材料力学から、今日に至るまでの、広い意味での材料力学の、発展の経過を、幾多の偉人の業績を紹介しつつ述べている。今日の技術の発達にあずかって、大きな力のある、学問的な理論の発展の跡が、わかり易く、面白く書かれてあり、学問的研究と、実践的な技術との関係が、容易に理解されるのは、興味深い。

現代技術論 山田圭一 著 (朝倉書店)

本書は、現代哲学の分野にも明るい科学者によって書かれたもので、現代技術の、複雑多岐にわたる性格を、色々な方向から分析し、その意義と問題点を洗い出し、“技術とは何か”の本質論へせまろうとする書物である。本書の原点が、従来の科学史、技術論に書かれてある様な、歴史上の技術と社会との関係と、現在我々が直面している現状とを、全く別の問題として

とらえた所から出発し、現代及び将来の科学技術と、人間及び人間社会との、関連を明らかにする思想や、学問体系を生み出す事を、目的として、書かれたものである事に注目したい。

技術の人間学 本多修郎 著 (朝倉書店)

本書は、哲学者である著者によって、現代社会における技術者、並びに技術者を目ざす若い学生を対象として、それらの人々にとって、技術の修得と共に、欠くべからざる、技術精神、技術思想と言うべきものを確立する助けとなる事を願って、書かれている。よって、この本では、技術と人間との関わりについての、諸思想の、歴史的な発端と発展とを示す事により、両者の根元的な関係を思索している。従って、内容的には、哲学思想の記述が主であるが、ねらいは、技術と関わりを持つ人間の、その技術との関わりのおかげの“人間らしさ”の追求にある、と言えよう。

以上、技術史、工学史関係及び、技術思想、技術論に関する、数冊の書籍を挙げたが、これらは、我々が先人の築き上げた偉大な業績を、正しく認識し、その上に立って、今後技術者として進んで行くうえにおいて、技術とは何か、我々技術者はいかにあるべきか、を考える1つの参考になる様に思われる。

最後に、暗い話題が多い現状においても、我々技術者は、常に新しいものを開拓し、自己の目ざす目的に向かって、前進すべく、弛まぬ努力をする事が望まれるが、それには、我々技術者個人個人が、確たる主体制を確立するとともに、常に、未知のもの、未開のものに対する限りない夢と、野望を持ち続ける事が、必要であろうと思われる。そういった意味で下記の書物を、挙げておきたい。

技術者の夢 ウィリィ・リィ 原著 (森北出版)

本書は、非常に雄大な構想によって立案された実現可能な計画を紹介している。例えば、ドーバー海峡をつなぐトンネルの計画、洋上に浮かぶ飛行場の計画、を初めとして、大規模な地形改造の計画、自然現象のエネルギー利用計画等である。この話の雄大さは、読む者をして、思わず胸の踊る思いをさせるであろう。

こうして技術者の夢は、限りなく広がるのである。これらの果てしない夢の実現の為に、自己の前途を、しっかりと認識し、着実な一步一步の努力を、重ねて行きたいものである。

昔のお話

学校長 柏木 健三郎

その頃の学生の引越しなどわけのないことだった。何しろ、持物といえはうす汚れた布団と本だけである。他に何も無い。リヤカーに積んで2年以上住みなれた寮を後にした。高校3年の春である。寮の裏門を出て手伝いの友人と二人で新しい下宿にリヤカーを引いて歩いていたら、郵便配達の小父さんが後から追いついて「落ちてましたよ。」と手渡してくれた。道路の上に点々とリヤカーからこぼれ落ちたらしい岩波文庫が十数冊。今でも覚えている。「アンナカレーニナ」「ジャンクリストフ」のいくつかの分冊。その頃はよく読んだ。濫読である。文科・理科を問わず学生たちはほとんどそうであった。金に乏しい学生たちのことだから、一つ星20銭の岩波文庫が求め易かった。「おれは岩波をもう何百冊読んだよ。」などと自慢と羨望で語られる。それと買い易いのは古本。東京に近い田舎町にいたこともあって、みんな日曜などの休みに上京しては神田の古本屋をしらみつぶしに歩きまわり、そのあとは映画と相場がきまっていた。

大学の頃はみじめだった。物はなくなるし腹は空くし、私たちの読みたいような新刊本など殆んど出なくなった。またもや古本屋である。その内とうとう下宿も空襲で焼けてしまった。隣の家まで燃えて来たところで部屋にもどり、火事の火明りで本箱の本や持物をリュックに詰めたり、手に持ったりして近所の墓地に逃げ込んだ。そこも火に追われて大学の構内に避難した。下宿の部屋を出る時、最後にもひとつ何を持とうか一瞬迷った。目に入ったのは油の絵具箱とアルバム。物がなかった時代の習性だろう。絵具箱を持って逃げた。アルバムにすればよかったと今になって悔やんでいる。油絵具など今ではいくらでも立派なものが買える世の中になったが、学生時代の思い出の写真はもう買えない。

持ち出した本の中には勿論岩波文庫がいっぱいあった。高校時代に郵便屋さんがひろってくれた「アンナカレーニナ」も「ジャンクリストフ」も欠けずにあった。不思議にも、暗い火明りの中で詰め込んだのにその他の岩波文庫の内、分冊ものは全部欠けずにリュックに入っていた。今でも手元の本箱の奥に眠っている。(はずである。)

新着図書目録

※印は図書館は各教育の研究室に所在するものを分類別受入順に記載

総記

朝日新聞縮刷版	昭和52年11月～53年1月号	朝日新聞社※
福島民報縮刷版	昭和52年11月～53年1月号	福島民報社※
和田文夫	いわきの民俗 上	いわき民報社※
紀田順一郎	現代人の読書	三一書房
日本の名著	32 勝海舟	中央公論社※
漢文大系	22 楚辭 近思錄	富山房
東洋文庫	204 甲斐文の世界	平凡社※
	239 麻詩三百言 1	同 ※
	265 同 2	同 ※
	320 實子譚 2	同 ※
	321 甲子夜話 3	同 ※
	322 實子譚 3	同 ※
	323 屍鬼二十五話	同 ※
	324 荆楚歳時記	同 ※
日本写真年鑑	昭和53年版, 78	日本写真新聞社※
日本図書館学講座	10 図書および図書館史	蓬山閣※
村上哲見	三体詩 上 (新訂中国古典選16)	朝日新聞社※
	同 下 (同 17)	同 ※
朝日年鑑	1978	同 ※
	昭和53年版 (別巻)	同 ※
阪本一郎	現代の読書心理学	金子書房

哲学

金岡秀友	密教の哲学	平楽寺書店
松長有慶	密教の歴史	同
道端良秀	仏教と儒教倫理	同
小林秀雄	本居宣長	新潮社※
広川洋一 他	ヨーロッパにおける学の生成	東海大学出版会
堀一郎	民間信仰	岩波書店
三枝博音	技術の哲学	同
高瀬弘一郎	キリシタン時代の研究	同
S.H.ナスル	イスラームの哲学者たち	同
アンリ・コルバン	イスラーム哲学史	同

アイブル, アイベスフェルト	愛と憎しみ 1,2	みすず書房	
R.I.エヴァンズ	フロムとの対話	同	
マックスウェーバ, H.カールフィッシャー	宗教社会学論集 1~3	同	
ジャンピアジュ	哲学の知恵と幻惑	同	
橋本真長	日本思想の分水嶺	頸草書房	
戸川行男	人間学的心理学	金子書房	
内山俊彦	荀子一古代思想家の肖像	評論社	
ハイデッガー選集	1 形而上学とは何か	理想社※	
	2 ニーチェの言葉「神は死せり」	ヘーゲルの「経験概念」	同 ※
	3 ヘルダーリンの詩の解明	同 ※	
	4 アナクシマンドロスの言葉	同 ※	
	5 乏しき時代の詩人	同 ※	
	6 悪徳の経験より	同 ※	
	7 哲学とは何か	同 ※	
	8 野の道へーヘルゲンの友	同 ※	
	9 形而上学入門	同 ※	
	10 同一性と差異性	同 ※	
	11 真理の本質についてプラトンの真理論	同 ※	
	12 芸術作品のはじまり	同 ※	
	13 世界像の時代	同 ※	
	14 詩と言葉	同 ※	
	15 放下	同 ※	
	16 存在と時間 上巻	同 ※	
	17 同 下巻	同 ※	
	18 技術論	同 ※	
	19 カント形而上学の問題	同 ※	
	20 有についてのカントのテーゼ	同 ※	
	21 ことばについての対話	同 ※	
	22 有の問いへ	同 ※	
	23 ヒューマニズムについて	同 ※	
	24 ニーチェ 上	同 ※	
	25 同 中	同 ※	
B. スイートランド	自己を生かす	創元社	
D. カーネギー	人を動かす 道は開ける	同	
M. マルツ	幸福を生む考え方	同	
亀山貞登	創造性	培風館	
W. ハイトラ	思索と運壁	共立出版※	
心理学入門講座	1 心のはたらき	大日本図書	
	2 人間の欲求 感情	同	
	3 学習と思考	同	
	4 子どもの心	同	
	5 現代青年の悩み	同	
	7 才能の発見	同	
	8 家庭の人間関係	同	
	9 職場の人間関係	同	
	10 職場の能力開発	同	
	11 ことば 文章	同	
	12 マスコミの世界	同	
エリアーデ著作集	ザルモクシスからジンギスカンへ 1	せりか書房※	

2 同 2	同 ※
5 露治師と鍼金術師	同 ※
講座宗教学	3 秩序への挑戦 東京大学出版会※
近代日本思想大系	33 大正思想史 I 筑摩書房※
	36 昭和思想史 II 同 ※
仏教思想	1 愛 平楽寺書店
朱子学大系	2 朱子の先駆 明德出版※
日本思想大系	40 本居宣長 岩波書店
	45 安藤昌益 佐藤信淵 同
岩波新書	652 性格はいつにつくられるか 同
	808 コンプレックス 同
ミッシュェル	精神疾患と心理学 みすず書房
フォン・ベルタランフ	人間とロボット 同 ※
越谷正敏	行動理解の心理学 埴内出版
性格心理学講座	1 性格の理論 金子書房
	2 性格の形成 同
	3 性格診断の技術 同
	4 性格の異常と指導 同
	5 性格の教育 同
清水利信	改訂増補 因子分析法 日本文化科学社
水島恵一	自己探究と人間回復 大日本図書

歴史

新中国の出土文物	外文出版社※
E. ガレン	イタリヤ ルネサンスにおける市民生活と科学 岩波書店
高取正男	菅原道真 (日本を創った人びと・4) 平凡社
ゴーロ, マン	近代ドイツ史 1,2 みすず書房
日本の山河	13 天と地の界 山口 図書刊行会※
	17 同 鳥取 同
江戸時代図誌別巻	1 日本図尽 筑摩書房※
	2 絵年表 2冊 同 ※
図説中国の歴史	6 遊牧民族国家 元 講談社※
	7 明帝国と日本 同 ※
	12 中国美術の流れ 同 ※
NHK ブックス	305 新版飛鳥 日本放送出版協会※
フランツ・ノイマン	ビヒモス みすず書房
Sirdiewellyn Woodward	The Age of Reform 1815~1870 Oxford
R.C.K.E nsor	England 1870~1914 同
A.J.P. Taylor	English History 同

社会科学

未来の学習	第一法規
授業研究大事典	明治図書
稲村松雄編	
英語科における測定と評価の理論と実践	柏原書店
勝田守一	
岩波小辞典教育	岩波書店
鈴木清 教育評価事典	明治図書
依田新編	
現代青年の人格形成	金子書房
丸木政臣	
教育の原点を求めて	あすなろ書房
古島雄 他	
人間性を育てる理論と指導	第一法規
吉本均編	
現代教授学	福村出版
上田豊 人間のための教育	国土社
小川太郎	
教育と陶冶の理論	明治図書
蜂屋慶 集団指導と教育愛	黎明書房
梶田敏一	
教育における評価の理論	金子書房
永澤幸七編	
教育心理学	西田書店
飯田芳郎	
問題行動とその指導	文教書院
佐治守夫	
カウンセリング入門	国土社
橋本重治	
教育評価法概説	金子書房
武田健 カウンセリングの理論と方法	理想社
藤原喜悦	
青年の生活心理	福村出版
西岡忠義	
リーダーシップの心理	大日本図書
鈴木清 他	
教育評価事典	第一法規
全国道徳指導研究会編	
内申書	民衆社
津留宏 高校生の生活と心理	大日本図書
山川岩之助 他	
保健体育	学事出版
小倉学 他	
保健体育科教育法	学文社
野地麗家	
作文指導論	共文社
橋本重治	
新教育評価法総説 上、下	金子書房
精解学校六法 昭和54年度版	協同出版
O. ティード	
リーダーシップ	創元社
城戸曙太郎	
日本の教育計画	厚徳社
嶋根信 西洋教育思想史 1~3	誠文堂新光社
細谷俊夫	
教育学研究入門	東京大学出版会
石川謙 日本庶民教育史	玉川大学出版部
藤原助市	
欧洲教育思想史 上、下	同 参
三浦修吾	
学校教師論	同 参
小原国芳	
八大教育主張	同 参
佐藤雅治郎	
自覚性の原理の展開	同 参

青年心理学講座	
1 文化と人生観	金子書房
2 恋愛と結婚	同
3 偏見と反抗	同
4 社会と職業生活	同
5 青年集団	同
青年の心理	
1 自己を育てる	大日本図書
2 友情 恋愛	同
3 青年の性と結婚	同
4 青年と社会	同
5 生活をゆたかに	同
6 危機と克服	同
現代青年の意識と行動 1~3	同
飯田芳郎	
生徒指導の研究と実践	文教書院
思春期の問題とその指導	同
問題行動とその指導	同
澤田慶輔	
問題行動の指導	図書文化
守屋克彦	
少年の非行と教育	類草書房
高橋雅春	
非行少年の類型	文教書院
望月一宏	
少年非行の動機と心理	有信堂
日本教科書大系	
1~4 古任天 (一~四)	講談社
5 教訓	同 参
6 社会	同 参
7 語彙	同 参
8 消息	同 参
9 地理 (一)	同 参
10 同 (二)	同 参
11 歴史	同 参
12 産業 (一)	同 参
13 同 (二)	同 参
14 理数	同 参
15 女子用	同 参
別巻 往來物系譜	同 参
II 続往來物系譜	同 参
日本教科書大系近代編	
1~3 修身 (一~三)	同 参
4~9 國語 (一~六)	同 参
10~14 算数 (一~五)	同 参
15~17 地理 (一~三)	同 参
18~20 歴史 (一~四)	同 参
25 唱歌	同 参
26 図学	同 参
27 習字	同 参
世界教育学名著選	
1 教育の人間学	明治図書
2 大教授学	同 参
3 文化と性格の階級型	同 参
4 道徳教育論	同 参
5 エミール	同 参
6 マルクス・エンゲルス教育論	同 参
7 教育哲学	同 参
8 人間の教育 幼児教育論	同 参
9 ドイツ国民教育論 他	同 参
10 集団主義と教育学 国民教育論	同 参
11 新しい児童観 ワロン・ピアジェ教育論	同 参
12 教育論 知育 徳育 体育論	同 参
13 政治と教育 社会理想主義	同 参
14 世界の美術的表現 陶冶論としての教	同 参
授学	同 参
15 自由教育 科学教育 教育と社会体制	同 参

16 國家と学校 國民性と教育	同 参
17 アメリカ独立期教育論 民衆教育論	同 参
18 芸術教育論 民衆のための芸術教育	同 参
19 社会変革と教育 すべてのもの者の中	同 参
等教育を	同 参
20 公教育の原理 フランス革命期の教育	同 参
改革構造	同 参
21 労働教育論 生活教育論	同 参
22 批判的教育学の問題 実証的教育学	同 参
別巻 てい紙 現代人と教育古典	同 参
講座情報社会科学	
1 情報科学の基礎 I~III 学習研究社	
2 情報技術の革新 I~III 同 参	
3 生命と情報 I~III 同 参	
4 言語と情報 I~III 同 参	
5 情報社会科学への視座 I~III 同 参	
6 社会システム論の基礎 I~III 同 参	
7 社会的技術の展開 I~III 同 参	
8 情報化社会論 I~III 同 参	
9 情報の社会経済学 I~III 同 参	
10 環境科学と人間 I~III 同 参	
11 知能と思考革命 I~III 同 参	
12 学習する社会 I~III 同 参	
13 社会組織のシステム再編成 I~III 同 参	
14 サイバネーション時代の政治 I~III 同 参	
16 情報文化の新たな次元 I~III 同 参	
17 情報文明の展望 I~III 同 参	
下田次郎	
女子教育	玉川大学出版部
谷本富 新教育叢書	同 参
中島半次郎	
教育思潮大観	同 参
垣内松三	
国語の力	同 参
片山伸 文芸教育論	同 参
小倉金之助	
数学教育の根本問題	同 参
倉田忠之助	
綴り方教授法 綴り方教授に関する教師の	同 参
修業	同 参
木下竹次	
学習各論 上、下	同 参
丸木政臣	
真実の教育を求めて	あすなろ書房
井上光洋	
教育工学の基礎	国土社
I. K. ディヴィス	
学習指導と意思決定	平凡社
G. I. ブラウン	
人間性を培う教育	日本文化科学社
井坂行男編	
人間形成 教育方法的観点から	明治図書
小泉英二編	
意欲をひきたす生徒指導	教育出版
高校生徒活動双書	同
小原国芳	
全人教育論	玉川大学出版
節道	同
道徳教育論	同
橋本健之助	
学校職業指導	東京電機大学出版
渡辺義一	

学校理科用品の利用と管理 黎明書房
 農村事務 生後指導の法律常識 第一法規
 樋口幸吉 新訂非行少年の心理 大日本図書
 ポール・ラングラン 世界の生涯教育 福村出版
 天城勉 他 現代教育用語辞典 第一法規
 文部法令研究会編 注解新教育六法 昭和53年版 同
 朝日新聞社編 教育を考えるためにこの48冊 朝日新聞社
 西藤喜博対談 教育と人間 国土社
 遠山啓 しろうと教育談 同
 海峽宗伝 改訂新版 教育原理 朝倉書店
 教育詳細の考え方 図書文化
 辻 功 教育調査法 誠文堂新光社
 勝田守一 教育とはなにか(家庭の教育1) 岩波書店
 現代保健体育学大系 体育科教育法 大修館書店
 祖父江孝男 他 文化人類学事典 ぎょうせい
 宮田文夫編 学校安全事典 第一法規
 大学体育教本 不味堂出版
 保健体育科教育の研究 同
 能重貞作 非行(実行シリーズ1) 民衆社
 教育評価の新動向 図書文化
 英語指導ハンドブック 大修館書店
 青年の性格形成 金子書店
 喫煙問題にどうとり組むか 学事出版
 青少年の自殺とその周辺 同
 中、高校生の自殺をどう防止するか 同
 昭和52年版 福島県自治便覧 福島民報社
 経済白書 昭和52年版 大蔵省印刷局
 片山清一編 資料教育動話 高陵社書店
 日本民俗文化大系 1 柳田泉男 講談社
 世界教育史大系 16 ロシア・ソビエト教育史Ⅱ 同
 岩波新書 17 中学生の日々 岩波書店
 612 青年期の教育 同
 885 ある高校教師の戦後史 同
 岩原信九郎 増補版推計学による新教育統計法 日本文化科学社
 新しい教育心理統計ノンパラメトリック法 同
 シリーズ新しい教育機器 1 オーバヘッド・プロジェクター 明治図書
 3 アナライザ 同
 教育工学講座 3 教授学習システム 大日本図書
 5 機器利用の教育工学 同
 6 教育における情報工学 同
 D. ガーホル 成熟社会 講談社
 ヒーリ 少年非行 みすず書房
 世界の女性史 8 兩欧の永遠の女たち 評論社
 日本教育年鑑 昭和53年版 ぎょうせい

デュルケム 道徳教育論 1,2 明治図書
 ディビット・ベイリー ニッポンの警察 サイマル出版会
 G. ブートワール 幼児授けの世界 みすず書房
 倉前盛造 悪の論理 日本工業新聞社
 日本情報処理開発センター C A I システム 日刊工業
 K. ウィドマー 若い世代との出会い 東洋館出版
 田崎修之助 殊外惑 大日本図書
 中村陽吉 対人関係の心理 同
 安倍北夫 入門群集心理学 同
 片岡徳雄 電を食かす栗田づくり(双書個を生かす栗田づくり1) 黎明書房

自然科学

荒川基一 有機金属化合物のガスクロマトグラフィー 技報堂
 伊藤一男 化学ロシア語入門 廣川書店
 コーガン 気液平衡データブック 講談社
 大内謙一 誰にでもわかる化学熱力学 廣川書店
 松浦良平 やさしい化学熱力学の解説と演習 同
 下村滋樹 最新機器分析 同
 上田陽 機器分析 同
 柳沢三郎 機器分析概説 同
 船久保英一 有機化合物確認法 1~N 養賢堂
 日本分析化学会近畿支部編 第5改稱機器分析実験法 上,下 化学同人
 F. W. Mc Lafferty マススペクトルの解釈と演習 同
 村野昭一郎 他 振動運動入門 コロナ社
 麻轟立男 薄積作成の基礎 日刊工業新聞社
 W. カウズマン 水の構造と物性 みすず書房
 ベ. スミルノフ スミルノフ高等数学教程 11,12 共立出版
 森本光生 佐藤超函数入門 同
 コルモゴロフ 函数解析の基礎 岩波書店
 L. シュワルツ 超函数の理論 同
 小森長生 月の地質学 筑地書館
 尾形斉 教師のための天文学 恒屋社
 藤井旭 天体写真教室 誠文堂新光社
 島 誠 水の惑星 玉川大学出版部
 磯石の科学 同
 大塚清輝 天文と気象 東京数学社

N. T. ペトロピッチ 宇宙に文明をもとめて 時事通信社
 S. ワインバーク 宇宙創成はじめての三分間 ダイアモンド社
 エス. ゲークレイン編 増訂新版数解析 文一総合出版
 アヒエセル ヒルベルト空間論 上,下 共立出版
 リース リースナジー関数解析学 上,下 同
 九州大学国文学研究会編 国文学演習 日刊工業新聞社
 産里信 積分 積分 エリ. ランダウ 実教出版
 エリ. ランダウ 流体力学 1 東京図書
 山岡幸夫 有機金属化合物の構造決定 1,2 講談社
 坂井貴一郎 植物成分の生合成 廣川書店
 同 第2版 同
 中野繁 月面とその観測 恒屋社
 佐伯恒夫 儀等の天体観測 同
 東京天文台編 理科年表 昭和53年 九善
 岩崎栄一 電気化学序説 東京電気大学出版局
 田村英雄 現代電気化学 培風館
 D. サットン 遷移金属錯体の電子スペクトル 同
 小島和夫 化学技術者のための熱力学 同
 大岳望 物質の単離と精製 東京大学出版会
 C. L. マンテル 吸着および吸着剤 技報堂
 秦忠夫 アミノ酸 タンパク質の分析 講談社
 北岡正三郎 糖類の分析 同
 長谷川喜代三 脂質の分析 同
 A. H. Gordon ゲル電気泳動法 東京化学同人
 青木幸一郎 電気泳動実験法 廣川書店
 N. V. Riggs 有機量子力学 同
 石田俊彦 反応有機化学入門 朝倉書店
 バーナル 歴史における科学 1~N みすず書房
 ミッシュル. フーコー 臨床医学の誕生 同
 日本精神鑑定 同
 岩波講座基礎数学 1~16 岩波書店
 白尾恒吉 確率と統計 学術図書出版
 山辺武郎編 高速液体クロマトグラフィーの手引き 同
 同 データ集 同
 小田睦 互補天文学 中央公論社
 A. ベリー ホワイトホール 光文社
 宮本正太郎 火星への旅 翠々堂
 ナイジェル. コールダー 爆発する宇宙 徳間書店

萩原雄祐		量子力学演習	吉岡書店	11	微分の諸定理	同	☆
天体物理学の基礎	生産技術センター	田嶋 太郎編		12	融合問題	同	☆
トビヤス、ダンツィフ		コンピュータ図学演習	コロナ社	13	複素数	同	☆
科学の言葉 数	岩波書店	松浦良平 他		14	軌跡と領域	同	☆
B. E. ノルティンク		基礎化学	廣川書店	15	幾何学	同	☆
研究人間	共立出版	無機化学実験書	同	16	集合と論理	同	☆
フォン、ベルタランフィ		定量分析	同	17	方程式の理論と解法	同	☆
一般システム理論	みすず書房	分析化学の基礎	同	18	順列組合せと確率	同	☆
人間とロボット	同	土屋利一		19	数列と級数	同	☆
柴谷専弘		GO-MS とその応用	講談社	20	整数	同	☆
反科学論	同	定性分析の基礎と実験	廣川書店	21	図形と方程式	同	☆
本多峰郎		藤水薫 がんの分子生物学	講談社	22	積分	同	☆
科学思想史概説	朝倉書店	G. E. フェック		23	確率と統計	同	☆
萩原明男		光合成 第2版	共立出版	24	公式集	同	☆
近代科学の起源	創元社	A. メシア			共立数学講座		
守田栄 他		メシア量子力学 1.3	東京図書	17	応用複素関数	共立出版	☆
騒音用語事典	オーム社	新物理実験図録 1.2	講談社		例題演習数学講座		
田中克己		石川道雄		4	フーリエ解析例題演習	京北出版	☆
顕微鏡の使い方	養華房	教養の生理学実験	南山堂		パークレー		
中哲郎		ル. リョネ			量子力学 上、下 (パークレー物理学コース		
物性工学の基礎	研倉書店	R. G. スタントン	東京図書	4)	4)	丸善	☆
A. J. Dekker		現代数学のトピックス	日本評論社		情報科学講座 A. 1-4		
電気物性論入門	九善	S. ストラシェウィック			情報科学の将来 (2冊)	共立出版	☆
数字ワンポイント双書		アシモフ選集	みすず書房		A. 2-1		
1 一様収束	共立出版	2 化学編 炭素の世界			論理数学 1 (2冊)	同	☆
2 平均値の定理	同	3 同 窒素の世界	共立出版		C. 10-3		
3 線形空間	同	新基礎化学シリーズ			記号処理言語 (2冊)	同	☆
4 無限集合	同	1 化学の基礎	大日本図書		C. 12-4		
5 重積分	同	2 有機化学の基礎	同		グループ・ダイナミクス (2冊)	同	☆
6 1次変換	同	3 コロイド化学の基礎	同		D. 14-1		
7 写像	同	4 高分子化学の基礎	同		電子計算機 1 (2冊)	同	☆
8 微分演算子	同	5 測定法の基礎 1	同		D. 15-1		
9 ティラー展開	同	6 同 2	同		科学計算 (2冊)	同	☆
10 整数	同	朝倉化学講座			D. 15-7		
11 テルソンその応用	同	21 化学における数学	朝倉書店		経路計算 (2冊)	同	☆
高橋康		Linus Pauling			D. 15-8		
物性研究者のための場の量子論 1.2	培風館	G. I. ブラウン	丸善		データ伝送	同	☆
ア. アプリコフ		植村辰 化学領土の開拓者たち	朝倉書店		日本物理学会編		
統計物理学における場の量子論の方法	東京図書	頼実正弘			新しい物質観	丸善	☆
電気磁気学	電気学会	板倉聖宣			極限状態の物理	同	
物性論 改訂版	同	K. D. Laver	国土社		理工学基礎講座		
W. ハイラー		松本誠 行列と幾何学	共立出版		量子力学	朝倉書店	☆
初等量子力学	共立出版	石谷茂 2次行列のすべて	現代数学社		岩波講座基礎数学 17	岩波書店	
オーリング		新しい演習方式 行列と行列式で楽しむ	同		音響工学講座		
量子力学序論	白水社	化学の領域	同		7 音声	コロナ社	
野村昭一		110 酵素類似機能をもち有機反応 1	南江堂		新実験化学講座		
量子力学入門	コロナ社	113 同 2	同		2 基礎技術	丸善	☆
H. A. ポール		116 化学の領域増刊	同		3 同 2磁気	同	☆
理学と工学のための量子力学入門	内田老鶴堂	科学新興社モノグラフ			4 同 3光1. II	同	☆
デイ. イ. プロフィッツェフ		1 漸化式	科学新興社		5.6 同 4.5 電気	同	☆
量子力学の原理的諸問題	文一総合出版	2 不等式	同		8 1-3 無機化合物の合成	同	☆
W. パウリ		3 ベクトル	同		9 分析化学 1. II	同	☆
量子力学の一般原理	講談社	4 3角関係	同		基礎生化学実験法		
ミグダル		5 最大と最小	同		2 抽出 分離精製	同	☆
量子力学の近似的方法	総合図書	6 対数関数	同		基礎物理学選書		
J. M. コースルズ		7 恒等式	同		4 光合成	養華房	☆
基礎量子力学	培風館	8 微分方程式	同		わかり易い工業数学講座		
朝水眞一郎		9 数学史	同		4 ベクトルと複素数	彰国社	
量子力学 I. II	みすず書房	10 写像	同		NHK ブックス		
西田俊夫					310 新月の科学	日本放送出版協会	☆
量子力学と演習	慎書店				化学の領域選書		
コンチナンチネスキュ					7 金属酵素の固体化学	南江堂	☆
量子力学 上、下	共立出版				情報処理入門講座		
小谷正雄					7 数値計算法	コロナ社	
大学演習 量子力学	養華房				化学モノグラフ		
三枝寿勝					25 エネルギーとエントロピー	化学同人	☆
					新数学シリーズ		
					5 行列と行列式	培風館	

基礎分析化学講座

2 物質の物理定数の測定法 共立出版
 4 分析化学計算法 同
 5 分析化学における推計学 同
 ブルーバックス
 B 303 毒薬星雲を探る 講談社
 B 333 超常現象の科学 同

近代数学講座
 14 函数解析演習 朝倉書店

基礎化学選書
 11 高分子化学 裳華房
 フランソワ、ジエコブ 生命の調理 みすず書房
 クルト、シュナイデル 精神病質人格 同

田中久編
 化学増刊 61 Bionorganic Chemistry 丸善
 同 68 II 同

Isadore Pnchuck
 Scientific and Technical Translation Andre Deutsch
 R. E. Showalter Hilbert Space Methods for Partial Differential Equations Pitman

Z. Symdyt
 Fourier Transformation and Linear Differential Equations Warsyawa

J. D. Achenbach
 Wave Propagation in Elastic Solids North Holland

海外技術情報シリーズ
 Experimental Measurements of Particle Motion in a Turbulent Pipe Flow サンケン技術貿易
 Effect of Small Amplitude Wall Warieness on the Laminar in a Pipe 同
 An Experimental Study of the Redevelopment of a Distorted Pipe Flow 同

Robin Hartshorne
 Algebraic Geometry Springer-Verlag
 Dynamic Behavior of Pipes Conveying Fluid Near Critical Velocites サンケン技術貿易

Dietrich Braun
 Praktikum der Makromolekularen Organischen Chemie A. Huthig V. Heidelberg
 P. A. M. Dirac The Principles of Quantum Mechanics みすず書房

工学・技術

小島和夫
 化学技術者のための熱力学 培風館
 舟坂茂 石油機器分析の実際 兩江堂
 石原研而 土質動力学の基礎 兎島出版会
 横山幸満 くい場造物の計算法と計算例 山海堂
 設計施工基準集(竣工編)土工 土質工学会

J. O. M. Bockris
 新エネルギーシステム 技報堂
 大石不二夫編 理工英語小辞典 英和=和英 三共出版
 近藤巖 作図と解説テクニカルイラストレーション 同
 J. コワリック 非線形最適化問題 培風館
 杉田雄 性 実用マイクロコンピュータ テクノ
 第12回土質工学会発表会 昭和52年度発表講演要 土質工学会
 放射線取扱いの要綱 日刊工業新聞社
 牧博司 他 半径流カスタービンの設計 パワー社
 松永省吾 工業熱力学入門 東京電機大学出版局
 田中俊六 太陽熱冷暖房システム オーム社
 小茂島和生 内燃機関工学 実教出版
 中原一郎 応用弾性学 同
 油空任用語編纂委員会編 図解 油 空任用語辞典 日刊工業新聞社
 コンピュータによる自動製図システム 同
 吉川弘之編 コンピュータ・グラフィック論 日科技術出版
 岡地栄 活用機械英和辞典 工業調査会
 松本博之 現場NC入門 ジャパンマシニスト社
 数値制御のプログラミング 大河出版
 ポンプ概論編纂委員会編 ポンプ概論 日本工業出版
 小野高麻呂 選び方・使い方の新ポンプ入門 ビジネス社
 玄 忠 ひずみゲージ入門 コロナ社
 電気技術研究会 図説電気設備技術基準 電気書院
 山川正光 オーディオ製作 1.2 オーム社
 北川一雄 リレー回路実験工作マニュアル 同
 長谷川英一 シンクロスコープ技術 同
 宮本義博 これでわかったシンクロスコープの取扱 い方 啓学出版
 日野幹雄 スペクトル解析 朝倉書店
 D. J. ハター 機械振動解析とプログラミング ブレイン図書
 武井英雄 金属材料学 理工学社
 田中和吉 はんだ付け技術 総合電子
 赤木善男 電子回路の組立て・配線マニュアル 日刊工業新聞社
 電子展望編 エレクトロニクス301回路集 誠文堂新光社
 電子部品ハンドブック 地人書館
 鈴木善孝 有機工業化学 東京電機大学出版局
 塩沢清茂 公害防止の管理と業務(大気編)

日刊工業新聞社
 南都祥一 岡(水質編) 同
 公害研究会編 新版公害用語辞典 同
 伊藤護司 印刷配線技術読本 同
 伊藤健一 アースと雑音 同
 近藤次郎編 大気汚染 コロナ社
 大北忠男編 環境工学概論 朝倉書店
 木村恒行 公害の理論 同
 本多隆郎 技術の人間学 同
 小川深 機械設計システムのプログラミング 森北出版
 神嶋正之 初学者のための水力学と流体力学 理工学社
 熱処理技術入門 大河出版
 河上渡 金属表面硬化熱処理技術 誠書店
 C. L. ディム 材料力学と変分法 ブレイン図書
 第29回建設省技術研究会報告 昭和50年度 建設省
 小町広 標準テキスト機械 オーム社
 竹中利夫 他 油力学 油圧工学 長賢堂
 後藤剛 他 産業中置便覧(2冊) 旺文堂出版
 神谷佳男 新版燃料と燃焼の化学 大日本図書
 三羽忠広 基礎合成樹脂の化学 技報堂
 沢田敏男 他 水利施設工学 II 各論 朝倉書店
 野口陽一 砂防工学 同
 寺匠本次 電気汚染の化学 技報堂
 昭和53年度電子通信学会総合全国大会講演論文集 昭和53年3月 電子通信学会
 はんだ付け技術編纂委員会編 エレクトロニクスのはんだ付け 総合電子出版
 通防補償設計指針 同解説 日本道路協会
 電子回路論 電気学会
 環境汚染分析法
 1 サンプリングと評価(大気) 大日本図書
 2 岡 水 土 食品 同
 3 重金属(大気) 同
 4 岡 水 土 食品 同
 5 シアン 水銀 同
 6 硫黄酸化物 同
 7 オキシダント窒素酸化物 同
 8 微量ガス 炭化水素 同
 9 PCB 同
 10 農薬 同
 11 ハロゲン 同
 12 悪臭 同
 13 BO BOD OC 同
 電験第2種計算演習シリーズ
 1 電気理論回路の演習 電気書院
 2 電気理論電気測定の計算演習 同

3 発電所の計算演習 同 幸
4 送配電施設管理および法規の計算演習 同 幸
5 電気機器の計算演習 同 幸
6 電力応用の計算演習 同 幸
下水道講座
1 下水道計画の策定 聖島出版会
2 管渠の設計と考え方 同 幸
3 ポンプ場の設計と考え方 同 幸
4 処理場の設計と考え方 同 幸
5 建設と改良計画 同 幸
6 維持管理と水質管理 同 幸
J. ジュース, D. サワーズ
発明の源泉 岩波書店
昭和53年電気学会全国大会論文集 昭和53年4月 電気学会
新しい工業材料の科学 金原出版
田中哲郎 他
圧電セラミック材料 学社社
垣内弘編
エポキシ樹脂 昭晃社
電子回路講座
1 線形システム理論の基礎 同 幸
2 線形回路理論 同 幸
4 線形電子回路 同 幸
5 非線形電子回路 同 幸
新版エレクトロニクス基礎回路講座
7 リレー回路 同
電子科学シリーズ
61 マイクロコンピュータの使い方 産報
64 マイクロコンピュータの作り方 同
69 P.C.M.通信の技術 同
日本工業立地センター編
最新公害辞典 日本工業新聞社
化学工学協会編
1 悪臭脱臭水質排水防止技術 技術書院
土木施工法講座
4 コンクリート橋上部構造施工法(2冊) 山海堂
5 橋梁下部構造施工法(2冊) 同 幸
9 河川構造物施工法(2冊) 同 幸
12 電力土木施工法(2冊) 同 幸
15-1 地下鉄道施工法 上(2冊) 同 幸
20 特殊構造物施工法
公害試験問題研究会編
公害試験問題の傾向と対策(騒音編) オーム社
N値およびCとφの考え方 土質工学会
屋野秀郎
技術革新の根本問題 須草書房
轉法輪主
吾輩の現代技術 東海大学出版会
土木構造物設計計算例
1 鋼合成げた橋の設計計算例 山海堂
2 プレストレストコンクリート橋の設計計算例 同
3 鉄筋コンクリート橋の設計計算例 同
4 くいおよびケーソン基礎の設計計算例 同
5 改訂直接基礎および橋台橋脚の設計計算例 同
6 道路構造物の設計計算例 同
7 地下仮設構造物の設計計算例 同
岡村健二郎 他
切削工学(精密工学講座11) コロナ社
工業英語シリーズ
1 工業英語の正しい訳 両堂堂
図で読む遠方監視制御の最新技術 電気書院

新版土木工法事典 産業調査会
通称産業省編
全国工場通覧 1978年版 日刊工業新聞社
土質基礎工学ライブラリー
12 切土ノリ面 土質工学会
14 突海例に見る構造物基礎 同
土田虎一郎
下水道管まきの計画と設計計算 現代理工学出版
リレー応用技術リレーとトランジスタの組み合わせ 誠文堂新光社
海洋建設研究委員会編
海洋開発における基礎構造物における現状
海洋構造物の計画 土質工学会
同 設計基準および事例 同 幸
同 施工機械材料 同 幸
同 施工技術 同 幸
ブルーバックス
B-332 エネルギーをつかむ 講談社
エンジニアリング,サイエンス講座
14 流れと熱の工学 II 共立出版
照明(電気学会 電気専門用語集No13) コロナ社
機械用語辞典 同
田中哲郎
電気材料科学 誠文堂新光社
近代電気工学大講座
7 近代電気材料工学 電気書院
電気工学基礎講座
9 電気材料および部品 朝倉書店
材料科学講座
4 物質の電氣的性質 同 幸
小石真純
分散技術入門 日刊工業新聞社
北村恒二
騒音と振動のシステム計測 コロナ社
R.K.Livesley
Matrix Methods of Structural Analysis Pergamon
Prediction of Long Term Deformation of a Compacted Cohesive Soil Embankment Quera Soft Foundation クリアコム
Dynamic Response of Structures in Layered Soils 同
Jean Herbert
Conference Terminology Elsevier
産 業
樹木の設計 産業技術センター
小泉製鉄所
歴史の中の単位 総合科学出版
NHK ブックス
304 種の道 日本放送出版協会
芸 術
最新テニス百科 ベースボールマガジン社
新島春敏
書道宝典 東京堂出版
J.スコット
現代スポーツへの警告 不味堂出版
谷村誠己編
体育学研究文献分類目録 同
日本体育協会スポーツ科学研究報告集 1975年度

日本体育協会スポーツ科学委員会
日本松巻大成
8 年中行事総巻大成 中央公論社
10 朝物語総巻 枕草子総巻 陸房脚註同
巻巻 同
19 住古物語総巻 小野宮見御幸総巻 同
新館日本絵巻物全集
16 春日権現験記絵 角川書店
日本伝書第二期
4 國空吉祥天像 国空俱舎曼陀羅園 学習研究社

語 学

増訂訂正 康熙字典 講談社
E.ケルウェル
失われたドイツ語 白水社
米国現代語文学学会編
英語論文の手引 北屋堂書店
三浦和一
外交の英語 研究社
ミルカ・ウィッチ
言語学の流れ みずす書房
渡部昇 国語のイデオロギー 中央公論社
古文の読書演習 徒然草 文芸堂
小学館ランダムハウス英和大辞典上,下 小学館
斉藤孝 学術論文の技法 日本エディタースクール
金田一春彦編 学研国語大辞典 学習研究社
菅室明保編 学研漢和大辞典 同
広田栄太郎 他
文章表現辞典 東京堂出版
V.ハワード
説得力 創元社
二谷實二
すぐ使える教養英語 開隆堂
岡弘正雄
異文化に橋を架ける ELEC出版
新村出編
広辞苑 岩波書店
E.ジュール
言語学と哲学 同
Gretchen Bloom
The Language of Hospital Services in English Regents
J. B. Heaton
Writing English Language Tests Longman
Word Attack A. Way to Better Reading H.B. Jouanouich

文 学

江島淳編
明日小事典 夏目漱石 朝日新聞社
富安風生
老の華 3併話 求龍堂
ルネサンス研究所編
シェイクスピアと宗教 荒竹出版
永田淑子
シェイクスピアの宗教的医流 同
三沢佳子
ジョージ・オーウェル研究 御茶の水書房
大塚幸男

比較文学原論
 堀口大学
 水かかみ
 前野直彬
 宋詩鑑賞辞典
 船津富彦
 中国詩話の研究
 小川環樹
 風と雲
 ゴーゴリ全集
 7 菅間

白水社 | NHK ブックス
 307 仏教文学の世界 日本放送出版協会
 昭和出版 | 世界の文学
 3 ベールイ 集英社
 東京堂出版 | 12 ブランシヨグラック 同 楽
 24 ユルスナルガーデンヌ 同 楽
 八雲書房 | 鑑賞日本古典文学
 1 古事記
 朝日新聞社 | 34 源流本 黄表紙 滑摺本 角川書店
 吉川幸次郎全集 22 筑摩書房
 河出書房 | 上林説全集 6~10 同 楽

山村静
 詩と回想 塵椅子の上で 音美社
 古賀誠夫
 Essays on Graham Greene and
 His Work 広島大学出版研究会
 Margaret Crum
 The Poems of Henry King
 Oxfoud